

第4章 市民アンケート調査

1. アンケート調査結果の概要

(1) アンケート調査の概要

本基本構想の重点整備地区の選定や整備計画に向けた課題を把握するなどの目的で、高齢者、障がい者等が日常生活上よく利用する施設、あるいは移動上困ることがある道路について、バリアフリーの課題の現状を把握するために、高齢者、障がい者等を対象とした「市民アンケート調査」を実施しました。

調査方法

対象者	抽出方法	配布・回収方法
高齢者	住民基本台帳から、地区の人口比率に合わせ、65歳以上の市民を無作為抽出	郵送による配布と回収
身体障がい者	手帳保持者より無作為抽出	郵送による配布と回収
知的障がい者	手帳保持者より無作為抽出	郵送による配布と回収
精神障がい者	手帳保持者より無作為抽出	郵送による配布と回収
妊産婦子育て	会場配布	手渡しによる直接配布と、配布場所での直接回収と郵送回収

配布回収日

配布日：<高齢者、障がい者> 平成20年11月28日
 <妊産婦子育て親> 平成20年11月28日（1歳6ヶ月検診にて配布）
 12月2日（園長会にて配布）
 12月5日（3ヶ月検診にて配布）
 12月12日（1歳6ヶ月検診にて配布）

回収期日：平成20年12月20日

回収結果

	対象者数	配布票	配布率(%)	回収票	回収率(%)
高齢者	14,519	1,000	6.9	609	60.9
身体障がい者	3,517	602	17.1	285	47.3
知的障がい者	449	100	22.3	35	35.0
精神障がい者	203	98	48.3	40	40.8
妊産婦子育て	-	200	-	47	23.5
合計	-	2,000	-	1,016	50.8

対象者数は平成20年10月末現在

(2) アンケート設問一覧表

アンケートの設問は次のとおりです。

設問の概要	形式	配布対象				
		高齢	身体	知的	精神	子育て
アンケートの対象となる方に関する設問						
回答者本人か代理か	単	-	-			-
バリアフリーへの関心	単					
年齢	単					-
子どもの年齢	単	-	-	-	-	
性別	単					-
お住まいの地区	単					
障がいの部位、所持している手帳や等級	複	-				-
外出の有無	単					
外出の際の交通手段	複					
外出における付き添いなどの必要性	単					
外出における付き添いなどの理由	複					-
普段の生活に使用している歩行補助具や装具など	複					-
ベビーカーの使用の有無	単	-	-	-	-	
利用する生活関連施設に関する設問						
よく利用する生活関連施設	複					
生活関連施設への移動手段	複					
よく利用する鉄道駅に関する設問						
もっともよく利用する鉄道駅	単					
市内のよく利用する鉄道駅	単					
市内の鉄道駅への交通手段	単					
市内のよく利用する鉄道駅で困ること	複					
よく利用する道路に関する設問						
もっともよく歩く道路	単					
ついでよく歩く道路	単					
もっともよく歩く道路で困ること	複					
路線バスの利用に関する設問						
路線バスの利用頻度	単					
路線バスの利用目的	複					
路線バスの利用時に困ること	複					
自由回答						
バリアフリー化の推進にあたっての意見や提案	自					

形式...それぞれ単：単数回答、複：複数回答、自：自由回答

(3) アンケート結果の概要

バリアフリーへの関心 [単数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	関心がある	
高齢者 (N = 582)	84.4%	多くの対象者において、バリアフリーへの関心が高い結果となっています。なお、精神障がい者では、「どちらとも言えない」が46.2%ともっとも高くなっています。
身体障がい者 (N = 273)	86.8%	
知的障がい者 (N = 35)	68.6%	
精神障がい者 (N = 39)	38.5%	
子育て親 (N = 47)	71.7%	

外出の有無 [単数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	外出する	
高齢者 (N = 587)	97.1%	すべての対象者において、「外出する」と回答した人が多くなっています。外出に制約を受けやすい身体障がい者においても、多くの人が出歩いていることがうかがえます。
身体障がい者 (N = 270)	93.7%	
知的障がい者 (N = 34)	100.0%	
精神障がい者 (N = 39)	89.7%	
子育て親 (N = 46)	100.0%	

外出の際の交通手段 [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	電車	バス	
高齢者 (N = 570)	50.2%	51.2%	子育て親を除き、「電車」と「バス」の回答が比較的高くなっています。子育て親は、「車」による移動が多く、「車(自分で運転)」が73.9%となりました。
身体障がい者 (N = 253)	36.0%	41.5%	
知的障がい者 (N = 34)	58.8%	52.9%	
精神障がい者 (N = 40)	34.4%	37.1%	
子育て親 (N = 46)	26.1%	10.9%	

外出における付き添いなどの必要性 [単数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	必要	うち 遠方のみ	
高齢者 (N = 583)	11.5%	7.4%	知的障がい者が、もっとも付き添いを必要としており、次いで身体障がい者となっています。子育て親においても、夫や親などと一緒に外出する必要性が高くなっています。
身体障がい者 (N = 270)	48.9%	20.4%	
知的障がい者 (N = 24)	76.5%	14.7%	
精神障がい者 (N = 36)	33.3%	19.4%	
子育て親 (N = 45)	86.4%	17.8%	

子育て親については、夫や親などと一緒に外出する頻度

外出における付き添いなどの理由 [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	歩行困難	公共交通の乗降困難	
高齢者 (N = 57)	28.1%	31.6%	「ひとりで歩行が困難」を理由としたのは、身体障がい者がもっとも高く、「ひとりで電車やバスの乗降が困難」を理由としたのは、高齢者がもっとも高くなっています。
身体障がい者 (N = 117)	39.3%	27.4%	
知的障がい者 (N = 24)	16.7%	29.2%	
精神障がい者 (N = 12)	8.3%	25.0%	

普段の生活に使用している歩行補助具や装具など [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	杖	車いす	
高齢者 (N = 420)	9.8%	1.7%	身体障がい者では、「杖」がもっとも高く、次いで「車いす」が高くなっています。 知的障がい者を除いては、「杖」がもっとも高く、次いで「車いす」が高くなっています。
身体障がい者 (N = 230)	37.0%	17.4%	
知的障がい者 (N = 19)	0.0%	15.8%	
精神障がい者 (N = 30)	13.3%	0.0%	
子育て親 (N = 45)	8.9%	37.8%	

子育て親は、「常にベビーカーを利用」及び「ベビーカーを利用することが多い」についての回答率

よく利用する生活関連施設 (徒歩及び公共交通の利用者) [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	1位	2位	3位	4位	5位
高齢者 (N = 578)	鉄道駅	郵便局	金融機関	スーパー等	医院・診療所
身体障がい者 (N = 285)	病院	鉄道駅	郵便局、スーパー等		市役所、医院・診療所、コンビニ
知的障がい者 (N = 35)	鉄道駅	スーパー等	図書館	コンビニ	医院・診療所
精神障がい者 (N = 36)	スーパー等	コンビニ	鉄道駅、医院・診療所		郵便局
子育て親 (N = 45)	コンビニ	公園	鉄道駅、郵便局、スーパー等		
対象者 (Nは有効回答数)	6位	7位	8位	9位	10位
高齢者 (N = 578)	市役所	病院	コンビニ	図書館	文化センター
身体障がい者 (N = 285)	市役所、医院・診療所、コンビニ		金融機関、図書館		大型商業施設
知的障がい者 (N = 35)	市役所	公園、郵便局、大型商業施設			文化センター、金融機関
精神障がい者 (N = 36)	市役所	金融機関	病院、大型商業施設		図書館、公園
子育て親 (N = 45)	医院・診療所	金融機関	市役所、図書館		文化センター、母子健康センター

市内のよく利用する鉄道駅 [単数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	八幡市駅	橋本駅	
高齢者 (N = 470)	72.6%	27.4%	いずれの対象者においても、「八幡市駅」が多く、概ね7割以上となっています。
身体障がい者 (N = 188)	79.8%	20.2%	
知的障がい者 (N = 29)	89.7%	10.3%	
精神障がい者 (N = 25)	68.0%	32.0%	
子育て親 (N = 42)	85.7%	14.3%	

市内のよく利用する鉄道駅で困ること (八幡市駅) [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	1位	2位	3位
高齢者 (N = 230)	階段移動	トイレ利用	駅近くの駐車場が少ない
身体障がい者 (N = 119)	階段移動	トイレ利用	駅近くの駐車場が少ない
知的障がい者 (N = 17)	階段移動	トイレ利用	車両とホームの乗降
精神障がい者 (N = 9)	階段移動	トイレ利用、駅近くの駐車場が少ない	
子育て親 (N = 29)	階段移動	トイレ利用	車両とホームの乗降

市内のよく利用する鉄道駅で困ること (橋本駅) [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	1位	2位	3位
高齢者 (N = 70)	トイレ利用	ホーム移動	階段移動
身体障がい者 (N = 24)	トイレ利用	階段移動	通路移動、休憩施設
知的障がい者 (N = 3)	駅近くの駐車場が少ない	-	-
精神障がい者 (N = 7)	トイレ利用	-	-
子育て親 (N = 3)	トイレ利用、通路移動		-

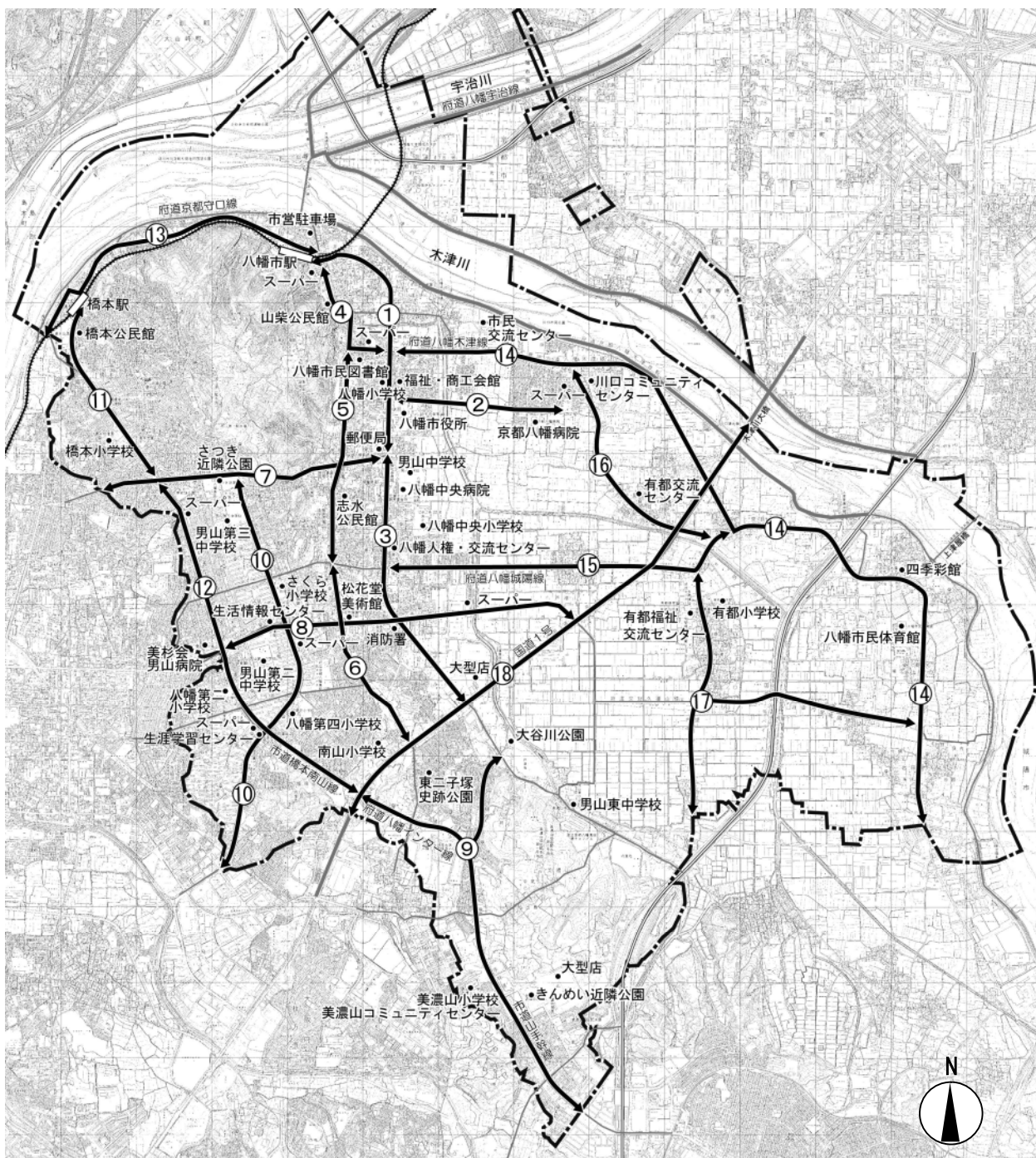
「 - 」は、回答者少数のため非掲載

もっともよく歩く道路 [単数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	1位	2位	3位	4位	5位
高齢者 (N = 466)					
身体障がい者 (N = 169)					
知的障がい者 (N = 23)					
精神障がい者 (N = 29)					
子育て親 (N = 41)					

もっともよく歩く道路で困ること [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	1位	2位	3位
高齢者 (N = 318)	歩道がない・幅が狭い	段差やデコボコ、街灯が少ない	
身体障がい者 (N = 139)	休憩場所が少ない	段差やデコボコ	歩道がない・幅が狭い
知的障がい者 (N = 19)	歩道がない・幅が狭い	段差やデコボコ、街灯が少ない	
精神障がい者 (N = 21)	段差やデコボコ	歩道のこう配大きい	休憩場所が少ない
子育て親 (N = 36)	歩道がない・幅が狭い	街灯が少ない	段差やデコボコ



【よく歩く道路の図】

路線バスの利用頻度 [単数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	よく	たまに	
高齢者 (N = 577)	27.2%	40.7%	子育て親を除いては、「よく利用する」が25%以上となっています。また、「よく利用する」と「たまに利用する」との合計が半数以上となっています。
身体障がい者 (N = 257)	25.3%	30.4%	
知的障がい者 (N = 32)	28.1%	34.4%	
精神障がい者 (N = 37)	29.7%	21.6%	
子育て親 (N = 37)	8.9%	17.8%	

路線バスの利用目的 [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	1位	2位	3位
高齢者 (N = 496)	駅	買い物	通院
身体障がい者 (N = 182)	駅	通院	買い物
知的障がい者 (N = 27)	駅	買い物	通勤・通学
精神障がい者 (N = 27)	駅	通院	買い物
子育て親 (N = 31)	駅	友人・知人の家	通勤・通学

路線バスの利用時に困ること [複数回答]

対象者 (Nは有効回答数)	1位	2位	3位
高齢者 (N = 324)	バス停で雨に濡れる	その他 (ベンチ等)	便数が少ない
身体障がい者 (N = 148)	段差等で乗降困難	バス停で雨に濡れる	便数が少ない
知的障がい者 (N = 22)	バス停で雨に濡れる	便数が少ない	その他 (ベンチ等)
精神障がい者 (N = 17)	バス停で雨に濡れる、便数が少ない		時刻表が見にくい
子育て親 (N = 27)	バス停で雨に濡れる	段差等で乗降困難、便数が少ない	

(4) 自由回答の概要

アンケートにおける自由回答については、多く寄せられた意見の中で、とくに多い意見についてまとめました。鉄道駅については、エレベーターの設置等について意見が多く寄せられました。道路については、歩道の狭い幅員、段差やデコボコ、路上駐車、道路側溝やグレーチングの危険性、自転車の走行マナーへの意見が多くありました。バスについては、バス停のベンチ設置への意見が多く寄せられました。

< 鉄道駅について >

おもな意見	同様な意見数
八幡市駅にエレベーターを取りつけてください。足が痛くてとても辛いです。(高齢者)	107
現在のところ不便を感じませんが、将来、夫が車に乗れなくなり公共の鉄道を利用するようになったとき、駅にエレベーター(エスカレーター)があればいいと思います。(高齢者)	
80 才になりますが、バリアフリーの遅れを痛感するのは八幡市駅の階段です。病後や膝が痛んだ時に京都へ行く場合には、バスで樟葉へ行って電車に乗ることにしています。(高齢者)	
八幡市駅(京阪電車)のバリアフリー化をぜひおすすめください。エスカレーター、エレベーターをぜひお願いします。足が不自由なのでとても困っています。(身体障がい者)	
八幡市駅にエレベーターを設置してください。しんどくてたまりません。よろしくお願いします。(知的障がい者)	
八幡市駅(京阪)にエスカレーターかまたはエレベーターを設置してください。階段が怖くて倒れそうになります。足の状態が悪いのでこたえます。(精神障がい者)	
八幡市駅でベビーカーなど利用のときが一番困ります。階段ばかりでとても大変です。子どもが小さく、ベビーカーでの移動がほとんどで、電車を利用して市外に外出したいけれど、八幡市駅にエレベーターがないため、外出するのがおっくうで出産してから1年半ほとんど電車を利用していません(子どもがベビーカーを嫌がり1度降ろすと次に乗らないため、階段で降ろすことができない)。(子育て親)	

< 道路について >

おもな意見	同様な意見数
八幡木津線は、大型自動車の通行が非常に多い道路ですね。道幅も狭く、歩道のないところもあり、歩くことはもちろん、自転車の通行ですら危険を感じます。(高齢者)	17
ボランティアで車いすに人を乗せて歩く時、八幡市役所から八幡市駅を向いて歩道の幅が狭く困ったことがよくありました。(高齢者)	
介助者と手をつないで歩きたいが歩道の中が狭い。(知的障がい者)	
ベビーカーを使っていた頃は、歩道がないまたは狭すぎるところは困ったし危険。(子育て親)	
道路の段差を少なくしてほしい。足を上げて歩いているつもりでも時々つまずきそうになる。(高齢者)	25
歩道への段差、こう配をなくしてほしい。道路がかまぼこ状態になっていて、車いすを押して歩きにくいところがある。(身体障がい者)	
子どもが生まれてベビーカーを利用する事になって初めて世の中には段差がいっぱいあることに気付かされました。ほんの少しの段差でもスムーズに上り下りができなくて困りました。(子育て親)	
歩道のデコボコや段差はこまめに修理してほしい。(高齢者)	22
最近、歳をとっているせいか、道路の修理(仮復旧)後のデコボコの状態が多く足もとが危なくて仕方ありません。また、夜になると街灯が少なく高齢者には車、歩行者とのすれ違いにとても危険を感じます。(高齢者)	
お天気のよい日など車いすで散歩に出たいと思いますが、歩道がデコボコで車いすが動かなくなるときがあります。段差もあり外出できません。(身体障がい者)	
歩道がガタガタしていて小さな子どもを連れているとき危ないです。植えてある木の根が大きくなっているのか、盛り上がっている歩道が多いのが気になります。(子育て親)	
道路へ樹木の枝はみ出し部分があり、歩行にも自転車その他にも危険。(高齢者)	17
歩道が広いと車が乗り上げて駐車していて車道を歩かないと通れない。(高齢者)	
道路沿いの歩道に駐車が多い。とくにコンビニや店舗前に当たり前のように駐車して歩行者や自転車の通行を困難にしている。パトカーや巡視の警察官からもっと注意を促してほしい。(高齢者)	
歩道のない道ではできるだけ端を歩こうとするが、電柱や駐車車両が障害になる。(身体障がい者)	

<p>先日も体が不自由のためふらつきがあり、溝に入ってしまう引き上げるのに大変苦労しました。他人の手を借りないと上がることができないため、本当に外に出るときは心配です。(身体障がい者)</p>	
<p>グレーチングのふた、マンホールのふた、アスファルトなど、耳が悪い人、高齢者には平衡感覚のバランスをとれない人が多いと思いますので側溝には必ずふたを設置してほしい。(身体障がい者)</p>	23
<p>側溝の金網で目の幅が大きいものでは、ベビーカーのタイヤがすっぽりはまって埋まって動かなくなり、恐い思いをした事もあります。夫がいるときは車で出掛けますが、歩いてでも外出しやすいまちづくりをお願いします。(子育て親)</p>	
<p>歩道に駐車している自転車が、自分が運転しているときも、立ち止まって進まないといけないときがある。マナーを守ってほしい。(高齢者)</p>	
<p>幹線道路(歩道のある道路)を歩いていて一番気になることは自転車の走行マナーの悪さです。とくに後方からの場合はベルを鳴らす。これが必要ではないか。音なしですぐそばを走り抜けられるときの恐怖感が高齢者、身体障がい者の方には切実な問題ではないかと思います。やはり安心して歩行できることを切望いたします。(高齢者)</p>	27
<p>歩道を自転車がスピードを出して近づいてくると怖くて、その場で動けなくなります。こけたら入院することになるだろうと思ったら安心して歩道を歩けません。交通ルールがはっきり皆にわかるようにPRしてほしい。(身体障がい者)</p>	

<バスについて>

おもな意見	同様な意見数
<p>バス停にイスが無くなり、長く立ってバスを待たないといけないとき、辛いときがある。バス停に限らず、もっと休憩できるイスなどを設けてほしい。(高齢者)</p>	
<p>一番に感じる事は、バス停に座るイス(ベンチ)のようなものがあれば年寄りにはよいと思います。障がいのある方にもよいと思います。(高齢者)</p>	18
<p>バス停にイスを置いてほしい。バスを待つ間に足が痛くて立っているのが辛い。(身体障がい者)</p>	